鹿病防第 37 号
令和８年 11 月 20 日

各関係機関の長　殿

鹿児島県病害虫防除所長

令和８年度 技術情報第 19 号（水稲のスクミリンゴガイ）について（送付）

水稲のスクミリンゴガイについて、下記のとおり取りまとめましたので、周知およびご指導をよろしくお願いいたします。

なお、本情報は、病害虫防除所ホームページ（https://www.pref.kagoshima.jp/ag13/kiad/boujosho/index.html）にも掲載しています。

令和８年度 技術情報 第 19 号

水稲のスクミリンゴガイについて、来年作に向けて越冬量を減らすため、下記の冬期対策を実施する。

１　対象病害虫　　スクミリンゴガイ

２　対象作物　　早期、普通期水稲

３　発生状況と根拠

（１）令和８年のスクミリンゴガイの発生面積率は、早期水稲で 31%（平年 23%、前年 16%）と平年よりやや高く、普通期水稲では 43%（平年 56%、前年 37%）と平年より低かった。いずれも発生程度「中」の密度の高いほ場が認められた（図１）。

（２）例年、12 月上旬から３月中旬にかけての期間は、平均気温が 14℃以下となり、スクミリンゴガイの活動が停止する時期にあたる（図２）。

（３）本年の向こう３か月の平均気温は平年より高いと予想されており（10 月 20 日気象庁発表）、越冬に有利な状況になるものと考えられる。

そこで、越冬開始期となる 12 月からの冬期対策を早期に実施し、越冬量を減少させることが重要である。

４　スクミリンゴガイの越冬について

スクミリンゴガイは 14℃以下になると活動を停止し、水田や水路で土中に潜って越冬する。翌春、気温が上昇し、水田に水が張られると越冬個体が活動を開始し、田植え直後のイネを食害する。

５　防除対策

（１）冬期耕うん

スクミリンゴガイを物理的に破砕する。土壌が乾燥して硬い厳冬期（１～２月）に耕うんを行う。耕耘する際は、トラクターの走行速度を遅くし、ロータリーの回転を速くすることで土壌が細かく砕かれ、破砕効果が高まる。また、厳冬期に行うことで、貝を寒風にさらし、殺貝効果を高める。

（２）水路の泥上げ

スクミリンゴガイは寒さに弱い（０℃環境下の場合、20～25 日で死亡）ため、厳冬期（１～２月）に水路の泥上げを行い、寒風にさらす。また、水路の泥上げは越冬場所をなくすと同時に雑草が取り除かれることで、翌年の餌をなくすことにもつながる。局所的でなく、地区全体で取り組むと効果が高まる。なお、掘り上げた泥は、未発生ほ場に持ち込まないように注意する。

（３）ほ場の均平化

スクミリンゴガイは水中でないと摂食できず、水深が浅いと活動が制限される。一方、凹凸があるほ場では、田面の深いところで貝が活動しやすく集中的に食害が生じる。ほ場の傾斜や凹凸をなくすため、ほ場の均平化を行う。

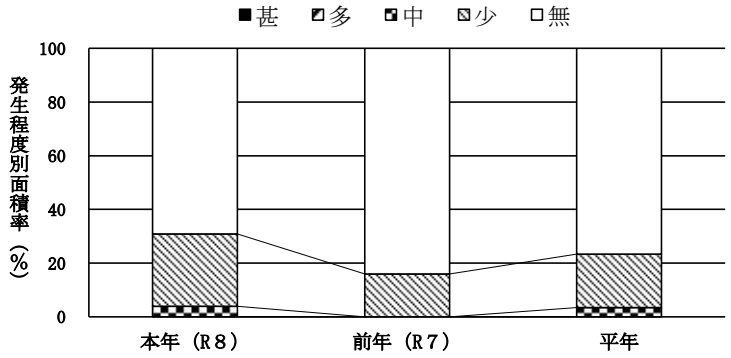
6　留意事項

（１）作業後の農業機械に本種が付着し移動することで、発生範囲が拡大する恐れがある。作業を行うほ場の順番を考慮するとともに、農業機械を移動させる際は泥をしっかりと洗い落とす。また、本年、スクミリンゴガイの被害が見られたほ場では、移植期の農薬散布など他の防除技術との組み合わせを検討する。

（２）スクミリンゴガイの防除対策については、農林水産省が公開するマニュアル等（https://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/gaicyu/siryou2/sukumi/sukumi.html）（令和７年６月更新）を参考にする。

7　参考データ

早期水稲



普通期水稲

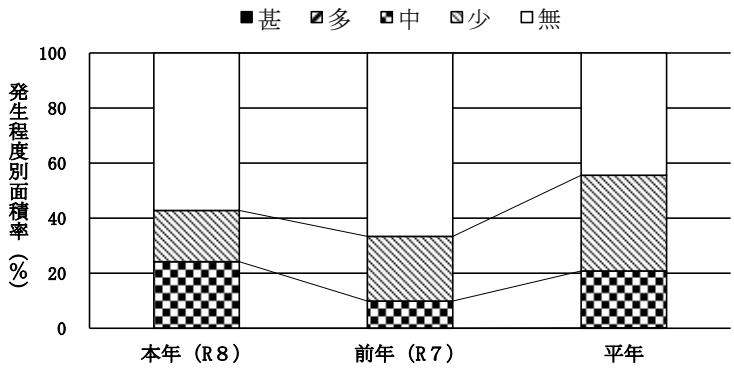


図１　　早期、普通期水稲でのスクミリンゴガイの発生程度別面積率の推移

＊発生程度判定基準（１㎡あたりの殻高２cm以上の貝密度）

無:０、少：0.1以下、中：0.2～3.0、多:3.1～7.0、甚:7.1以上 で調査し、程度別発生面積率を算出

調査時期：早期水稲４月下旬、普通期水稲６月下旬または７月上旬

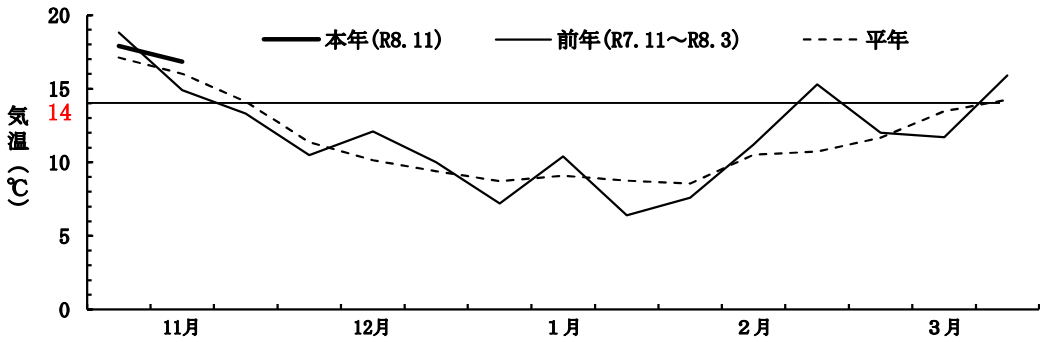


図２　令和７～８年および平年の冬期における平均気温の推移

（11月～３月、鹿児島地方気象台、観測点：加世田）